

鹿児島市喜入に定着していたジャワマンゲースの発見～沖縄・奄美の事例と比較して～
The discovery of mongoose established in the wild in Kyushu island, Japan

○玉井勘次 (鹿児島市平川動物公園)、船越公威 (鹿児島国際大学)

○Kanji Tamai (Hirakawa Zoological Park),

Kimitake Funakoshi (The International University of Kagoshima)

ジャワマンゲース *Herpestes javanicus* は侵略的外来生物としてよく知られており、日本では 1910 年に沖縄本島、1979 年に奄美大島に導入され、定着したのはこの 2 島のみとされてきた。以後、マンゲースは両島の在来生物群に激甚な被害を与え、多くの固有種を絶滅の縁に追いやり、8 年以上におよぶ懸命な取り組みにも関わらず、いまだ根絶には至っていない。

かくも根絶困難なマンゲースが、九州本土の鹿児島市喜入には 1979 年以前から多数定着していた。地元住民には以前から目撃され、捕獲されてきたにもかかわらず、その存在がマンゲースと認識されることはなく、地元高校の教諭による轢死体の拾得と、バードウォッチャーによる生体の撮影によって、2009 年 6 月に初めてその存在が明らかとなったのである。

発見後から現在までの鹿児島県と鹿児島国際大学による捕獲・調査 (ワナ・聞き取り・自動撮影・トラッキングトンネル) では、マンゲースの分布は喜入地域の南北 15km の比較的狭いエリアに限定的である可能性が高いことなどが示された。これまでの調査で得られた情報と沖縄・奄美の先行事例を比較して、マンゲースが 30 年にわたって見過ごされてきた理由と、その分布域がきわめて限定的である意味について考察したい。